

広報広聴関係について

各種事業名	概要	開催場所	対象者	内容	教育委員会関係件数 (H30.12定例教育委員会会議以降新たに市のホームページに公開されたもの)
市長とドンドン語ろう！	市長が各区に出向き、まちづくりについて直接市民と対話する。	各区公民館ホール等	各区区内にお住まいの方、勤務されている方	①まちづくりについて〔市長〕 ②意見交換（市長、出席者） (平成27年度開始)	0
市民の声	市長への手紙		どなたでも	市民が、まちづくりセンターなどに置いてある緑の封筒で意見や提案を送る。	2
	わたしの提言			市民からのまちづくりについての意見や提案を市政に反映させる。 市長への手紙の電子メール版。市民がファクスや電子メールにより意見や提案を送る。	

各種事業名	No.	開催日 受付日	提案・要望内容	回答内容
市民の声	1	H30 10月	<p>○市立中学校における朝のロードランについての回答について</p> <p>中学ロードランについての回答に感謝する。 当中学校、校長、教頭の弁に、 (4) 教師が強制的に参加させている実態はないものの、参加していない生徒がいる場合、参加を促すこともある。とあるが、これでは参加が前提であるという論理ではないのか。その結果が、 (5) 自主的な活動とは言え、実質的には、ほとんどの生徒が参加する活動となっている。 つまり生徒個人々の自由意思による参加ではなく、強制参加である証である。 現に、ロードランに参加せず登校した場合、教師から参加するように言われるとの証言を得ている。 それで、学校から足が遠のく模様である。おそらくロードランの日に欠席率が高くなっているものと思われる。 ロードランの日に学校を欠席した生徒に家庭訪問などして話をきくことぐらい、そちらでできるのではないか。 当方はただの一市民だが、仕事の合間にやってきた。交通費も自腹で。 このメールにしても一銭の得にもならないし、暇でやっているわけではない。熊本市に納税している市民の務めだと思うからである。 (1) 自らの体力向上や健康の保持増進のために、生徒が主体的に取り組んでいる活動であり、生徒総会で議決された生徒の自主的な活動と位置づけられている。 (2) いつから始まったのかは不明だが、少なくとも10年以上は続けられている。長距離走に苦手意識を持っている生徒が、少しでも自分の体力に自信が持てるようにと伝統的に行われている。 など、余計なお世話である。伝統をまず定義するべきである。文科省指導要領と何の関係があるのか。熊本市の中学校を軍隊にするつもりか。 市民税で運営される公立の中学校である。市民の理解の範囲にするべきである。 (6) 職員の服務上の問題もあることから、今年度に入り「朝ランニング」が教職員の間で議論になったが、生徒の自主的な活動であることを尊重し、今年度1年かけて検討していくこととしてスタートした。 年度途中であろうと、改善すべきは改善すべきである。即時改善を求める。</p>	<p>教育委員会では実際にロードランに参加し、生徒の様子を見てまいりました。 その際、これまでの欠席状況等も確認したところ、ロードランの日に限って欠席率が高くなっている実態はありませんでした。 しかしながら、当日参加している、していないに関わらず、ロードランが生徒の心の負担となっていることも心配されます。 そのようなことから、教育委員会から学校に対して教師が強制的にロードランに参加させることがないよう指導したところです。 これを受け、学校では生徒会主催の取組みであることを尊重しながらも、生徒に無理強いさせるような活動であってはならないことを全職員で確認し、生徒に周知すると共に保護者への理解を求めているところです。</p>
	【参考】	H30 10月	<p>【参考】市立中学校における朝のロードランについて</p> <p>市内のある中学校における朝のロードランについて伺う。 当中学校では週2回、授業開始前にほぼ全員の生徒によるロードランが行われているようである。 当中学校によると生徒の賛成多数により行っているとのことらしいが、賛成多数ということは、採決を取ったと思われる。 熊本市の中学校では、なぜ就学時間外のことについて採決がとれるのか。まずそれが第一点である。 次に、この採決にはある体育教師による無言の強制力が働いた節がある。報復を予想した多くの生徒が、やむなく賛成したのではないだろうか。 当職員は腰痛でしばらく休み、9月に復帰したようだが、復帰後は9月末まで連日水泳の授業が行われた様である。その授業で生徒は相当な距離と本数を泳がされたようだ。当職員の休暇中には、代わりの講師による体育の授業が行われていたにもかかわらず、なぜそのような授業が可能なのか。 7月の真夏日で全国的に熱中症が多数でた様な日でも、このロードランは行われ、生徒はその後、体育の授業で水泳をやり、午後からボランティアで幼稚園の園児の面倒を見たようである。熱中症のリスクは十分あったはずだ。 定期考査の前日まで行われる様だから、このロードランに関してはまったくの裁量なしなのか。ロードランをやりたい生徒が自主的に集まってやっているのなら、問題はそれ程ないと思うが、そうではないようで、発起人は職員で、全員強制参加だから、明らかに時間外拘束ではないか。 このようなものが何年続いているのかわからないが、もし職員の趣味で行われているとしたら、多年に渡って生徒を拘束し、肉体的苦痛を与え、朝早くから保護者をも巻き添えにした罪は大きいのではないか。調査をお願いします。 お分かりとは思いますが、ここでいう調査とは中学校の管理職から回答を得ることではない。市の中学の管理職が真実を言うはずはない。第三者による、生徒にどのような圧力も掛からない公正な調査と、論点をずらさない回答を待つ。</p>	<p>今回のご指摘が重要な内容であることから、管理職への確認が必要不可欠であると判断し、当該中学校長、教頭に事実確認を行いました。</p> <p>まず、当該中学校の「朝ランニング」の実施状況は次のとおりです。 (1) 自らの体力向上や健康の保持増進のために、生徒が主体的に取り組んでいる活動であり、生徒総会で議決された生徒の自主的な活動と位置づけられている。 (2) いつから始まったのかは不明だが、少なくとも10年以上は続けられている。長距離走に苦手意識を持っている生徒が、少しでも自分の体力に自信が持てるようにと伝統的に行われている。 (3) 毎週火曜と木曜日の週2回、午前7時40分から15分程度実施。運動場または学校周辺の道路を、男女に分かれて周回している。実施にあたっては、体育委員会が進行し、教職員が9名程度、安全確保のため監視にあたっている。 (4) 教師が強制的に参加させている実態はないものの、参加していない生徒がいる場合、参加を促すこともある。 (5) 自主的な活動とは言え、実質的には、ほとんどの生徒が参加する活動となっている。 (6) 職員の服務上の問題もあることから、今年度に入り「朝ランニング」が教職員の間で議論になったが、生徒の自主的な活動であることを尊重し、今年度1年かけて検討していくこととしてスタートした。 (7) 夏場の暑い時期にも生徒会による「朝ランニング」が行われ、その後、ボランティア活動が実施されたこともあった。</p> <p>次に、水泳の授業の実施状況については、次のとおりです。 (1) 同校では例年9月末まで水泳の授業が計画されている。 (2) 教育委員会の指導に基づき、水泳の授業は、2名以上の指導体制で実施している。 (3) 今年度は体育担当教諭1名が病氣療養に入っていたことに加え、もう1名の教諭も1週間ほど体調不良が続いた期間があったため、その期間は他教科の授業への振替が行われた。結果として、そのことにより、(1学期の)水泳の授業時数が不足し、例年より1週間ほど水泳の授業が長くなった。 (つづく)</p>

市民の声	【参考】	H30 10月		<p>(つづき)</p> <p>これらのことを踏まえ、学校に対し次のとおり指導を行いました。</p> <p>(1) 生徒会にも指導を行い、安全面を最優先に、体調や気候に配慮した活動とすること。</p> <p>(2) 引き続き、教師による強制力の伴うような指導にならないようすること。</p> <p>今後とも、学校教育へのご理解とご協力をお願い申し上げます。</p>
	2	H30 10月	<p>○博物館講座開設の発表時期について</p> <p>博物館の開館を心待ちにしていたので「市政だより11」で第1面にリニューアルオープンとの文字があったのでうれしく思い楽しみにしている。</p> <p>博物館は文化的面からも都市の顔との考え方もある。</p> <p>開館の内容紹介でここが変わった1の記事の中で下の方に(観覧後のフィールド観察や野外活動への参加も呼びかけています。)とある。</p> <p>「熊本博物館リニューアル基本構想・基本計画」平成24年3月 熊本市教育委員会</p> <p>この中の全体構想として(～8分野の総合博物館～)とあり、ソフト整備の一環として、体験型博物館としての充実～との文言があり、この部分のみに触れて他の講座開設に言及していないので疑問に感じる。</p> <p>他の残りの分野の学芸員による博物館講座開設の具体的分野等については市政だより何号で公表されるのか。</p>	<p>ご指摘の市政だより記事につきましては、紙幅の制限から、リニューアルオープンの告知に主眼を置き、一新した展示内容と企画展の内容、ご利用案内に絞ってお知らせしたものです。</p> <p>お尋ねの博物館講座開設につきましては、リニューアルオープン後、新しくなった展示室、講堂や実験・工作室などの設備を生かしながら、学芸員による講座や研修会、ミュージアムトーク、講演会など様々な取り組みを計画させていただいているところです。</p> <p>これらの取り組みについては、毎月の市政だよりや博物館ホームページと連動しながら、開催するイベントや講座開設情報等を掲載する予定としており、このほか、当館の月間行事やイベント・講座等をお伝えする「博物館ニュース」も毎月発行し、ホームページに掲載していくなど、当館に対しこれまで以上に親しんでいただけるよう、最新の情報を発信してまいります。</p>